

まちづくり コーディネーター通信

第11号
令和6年9月発行

目次

- P1. まちづくりコーディネーターの活動
- P2. おかねのまるさんかくしかく（浜田まちづくりセンター）
- P3. まちづくりの取組紹介（生湯町・金城町・旭町）
- P4. まちづくりの取組紹介（三隅町・弥栄町）
コーディネーターのつづき



協働の まちづくり

まちづくりコーディネーターの活動

まちづくりコーディネーターが活動をはじめて4年目となる2024年度の上半期は、地区まちづくり推進委員会の設立支援を重点活動として取組を進めました。

●地区まちづくり推進委員会の設立支援

地区まちづくり推進委員会は、地域の特性やニーズを把握し、住民が主体となって地域課題を解決するための重要な組織です。設立にあたっては、地域住民との対話を重視し、定例会議や意見交換会を通じて、地域課題を共有し、住民同士のつながり強化に努めています。

●まちづくり活動の推進

まちづくりセンターや地区まちづくり推進委員会が地域の情報発信やイベント企画、住民交流の場として機能するような支援を行っています。専門的知見を活かした助言や関係機関とのコーディネートを通して、地域住民が自らの手でまちづくりに参加しやすい環境が整うよう活動・事業を後押ししています。

●地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターとの相互連携支援

まちづくり活動の拠点であるまちづくりセンターと地区まちづくり推進委員会が連携することで、地域の課題解決に向けた取組がより効果的に進められます。複数の地区まちづくり推進委員会を有するまちづくりセンターにおいて、両者が定期的な情報共有や意見交換を行うことで、活動の相乗効果を生むよう努めています。

●コーディネーター全体の動き●



まちづくりコーディネーター同士や担当課との連携と情報共有のため、毎週火曜日の午後からミーティングを行っています。

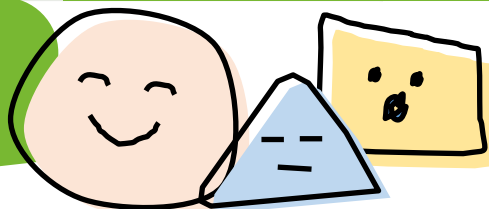
皆さんから相談いただいたことなど、細かく共有し連携した支援を行っていきますので、ぜひお気軽にまちづくりに関することをご相談ください！





浜田まちづくりセンター主催事業

おかねのまるさんかくしかく



新紙幣が発行されたこの夏、浜田まちづくりセンターでは、親子を対象にお金の勉強会が開かれ、**小学校4年生までの親子12組**が参加しました。

講師はキッズマネースクールあさきた校代表の**立畠英里先生**です。「お金って何？」との問いかけから始まり、会場からは「欲しいものが買える！」との元気な声。速攻「ピンポン！」と軽快にピンポンブザーで応える先生。



子どもの興味関心をそそる問いの答えに併せながら、「お金は腐らないから保存できるよね。」「みんなが納得して使うといいよね。」とお金の側面も話されました。この「保存できる」と「みんなが納得して使う」というシンプルな話は「貯金」や「生活費」という日々の暮らしそのものですが、子ども達には腐らない事には領けても、みんなが納得して使うものという気持ちはこの事業により学べたのではないかと思います。



子ども達のやる気スイッチも全開したところで、遊園地に出かける状況が提案され、500円とチャージカードが配られお土産代として100円残すことが伝えられました。遊園地ではメリーゴーランド、ジェットコースター、アイスクリーム、お化け屋敷、ハンバーガー等々お金の誘惑が次々繰り出されますが、カード内のお金は見えませんが、カード内のお金は見えませんが、誘惑に負けず見えないお金を計算しつつ全員がお土産を買えました。

「みんなが納得して使う」学びだと思えた100円の使い道です。ゲームを終えた子ども達に「**お金はありがたいの交換です。**」と先生は話されました。この後、子ども達はクラフト貯金箱制作や一円玉の重さで千円を体験する等様々な角度からお金について楽しく学びました。

保護者は教育資金を中心に、ファイナンシャル・プランニング技能士としての専門的なお話を伺いました。人生100年時代の効率的なお金の置き場所(定期、積み立て、投資、保険商品)について、またお金を使う予定の整理(短期、中期、長期)、人によりお金を使う目的と時期が異なるので運用も異なるなど、流動性、安全性、収益性に触れながらお話をされました。

第2弾は10月19日(土)小学生4～6年生と保護者を対象に実施予定とのことです♪



【保護者の声】

「**子どものお金の事が気になっていた。**
「**もともとお金の事を勉強していたので参加した。**」

【立畠先生】



「**お金は大事なものの、働いてもらうもの、限りがあるものを伝えたい。**」

「自分自身がお金の事を知りたいと思っていた。」と話すセンター職員の視点は、参加者に満足感のある学びの場になり、こうした地域での満足感のある交流や体験の積み重ねこそが、「地域づくり」の源だと思えました。

【写真提供:浜田まちづくりセンター】

まちづくりセンター

まちづくり推進委員会

取組紹介

pick UP!!

生湯町

地域の困ったことでもみんなで話せば盛り上がる！

■ 8月2日に生湯町のまちづくりに関する意見交換会を、石見まちづくりセンターと共同で開催しました！生湯町には1町内から4町内があり、全体での意見交換会は初の試みです。



議題は生湯町の課題とやってみたいことです。

「高齢化で草刈りができる人が減ってきて困っている」「バスが通ってないし、お店もない」「同じ町内でも知らない人が多いのよ」「運動する場所や集まれる場所が欲しいな」など、さまざまな意見で盛り上がりました。

こうして顔を合わせ、自分たちの地域が安心して暮らせる街になるようにと考えることが、協働のまちづくりへの一歩ですね！

金城町

夏だ！親子で体験だ！ 7月20日(土)・21日(日)「おぐにふるさと学校」 7月31日(水)「夏の今福小学校校区お楽しみ会」



夏休みに入り各まちづくりセンターでは親子を対象とした事業が計画され、活発に活動されました。

■ おぐにふるさと学校では、雨で校庭が使えずテントを体育館に設営し、親子でキャンプを楽しみました。また、火おこし、星の観察、川遊びと夏休みの貴重な体験をしました。

■ 夏の今福小学校校区お楽しみ会では、5・6年生の希望者が「ミニミニ会議」で計画した企画を今福、久佐、美又まちづくりセンターが連携し実施しました。メインはそうめん流し。衛生面に特に気を配り、箸に印をつける、少人数のグループに分ける等の工夫をしていました。大学生も参加し、子どもたちも楽しそうでした。どの事業も夏の良い思い出となりました。



旭町



学校×地域



■ 昨年度、「総合的な学習」で5つの地区を巡り、住民との交流を通して地域の魅力や課題を学んだ旭中学校の生徒は、旭地域を盛り上げるためのイベントの提案を行いました。この提案を地域住民と実現しようと、今年度は、旭地域の全てのまちづくりセンターで、生徒や地域住民とともに打ち合わせを重ねています。

このうち、木田まちづくりセンターでは、「**木田にあるものを使う、独自のイベントをする、楽しんでもらう**」との生徒の提案を組み込んだ事業を11月下旬に実施します。この企画段階では、新たに地元企業の関わりも生じ、地域の様々な主体を巻き込む事業が待ち遠しく思えます。

学校から地域へと引き継がれたバトンが、地域住民を動かしている事例として注目しています。





三隅町

まちづくり推進委員会INO「いのまる広場」×三隅中学校1年生

■ 井野まちづくりセンターでは毎月様々な企画で参加者がとても楽しみにしている「いのまる広場」があります。9月3日は、三隅中学校1年生の総合学習



「地域インタビュー～地域の人に聞いてみよう～」が合わせて行われました。中学生は地域の人と一緒に百歳体操を行い、レクリエーションをしながらいろいろな質問をしました。

中学生はインタビューを通して、地域の気持ちを知り、「**自分たちが井野や三隅を明るく楽しくしていきたい**」「**井野の良さを誰かに伝えていきたい**」と振り返りました。そして、地域の人は中学生とふれあうことで、いつにも増して楽しい時間を

過ごしました。まちづくり推進委員会INOは、**地域の人々が健康で元気に暮らせるように**と10月1日（火）も「いのまる広場」を開催予定です。

弥栄町

楽しく自然と環境を考えよう！その名も「ガサガサ」！

■ 8月10日、弥栄の自然と環境をまもる会主催の「ガサガサ」が開催されました。

「ガサガサ」とは、三隅川上流の環境と生態系を調査し、自然を守ることを学び考える、今年で4年目の取組です。子どもも大人も全員が調査員となり、網を使って川の中の生き物を調査します。**今年は綺麗な水質の目印「イシドジョウ」が6匹も見つかりました。**



後半は、講師の辻井要介さんから水中生物や環境について学びました。主催者の小笠原さんは「**生き物の名前を伝えるだけではダメ。その生き物が生息する環境まで考えることが大切**」と言っておられました。そしてこの結果は「身近な水環境の全国一斉調査」として国土交通省等に報告協力をされています。



過去30年間、先進7か国(G7)の中で唯一経済成長を実現できていない国が日本国であることを皆さんはご存知でしょうか。「国民一人あたりの借金が〇〇↑」、「このままでは日本は破綻する!」と言われ続け、とうとう国民負担率が約50%(ところで「資産」は?)。

国内では財政破綻論が主流で緊縮財政を継続している一方、日・米の先進国の自国通貨建て国債のデフォルト(債務不履行)は考えられないと言われています。

色んな財政論があるのを認めたくて、積極財政を私は期待していますが、皆さんはどうでしょうか？(文:佐々木)



コーディネーター派遣依頼は2次元コードからお願いします



浜田市地域政策部

まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9201

0855-25-9007

(まちづくりコーディネーター執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 machizukuri@city.hamada.lg.jp